

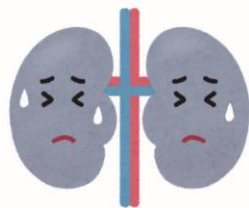
# 歯を磨けば命が輝く 〜歯原性菌血症の怖い話〜



花田 信弘（はなだ のぶひろ）  
福岡県出身 歯学博士

鶴見大学 歯学部 探索歯学講座 主任教授  
国立感染症研究所 口腔科学部長を経て現職。  
全国各地の大学歯学部の講師を務める。

## 第5話 口の中のエイリアンが腎臓へ行く



前回はバイオフィーム細菌というやっかいなエイリアンが口の中に住みついていてのお話をしました。細菌はさまざまな毒素を持っていますから、放置すると炎症や発熱を引き起こします。このエイリアンは歯を磨かないと血液の中に侵入し、血流を介して体の一部に住み着きます。侵入したエイリアンは腎臓を始め多くの臓器に襲い掛かります。なぜ、高齢になると腎臓機能が低下するのでしょうか？その理由はさまざまですが、腎臓は血液の汚れをろ過して取り除く臓器なので、血液中に細菌や毒素が多いと炎症が起きるようです。腎臓病の最後は人工透析ですが、人工透析患者の口腔衛生状態は不良であることがわかっています。人工透析をしている腎臓病の患者さん45名の口の中の汚れを調べた調査では、患者全員が歯周病でした。口腔清掃度を示す指標（OHIS：0から6までの範囲）は平均3・24でした。喫煙者で歯が汚いと見なされる成人でもOHISの平均は2・90程度ですから人工透析の患者さんの口の汚れは更にひどいことがわかります。

歯磨きを怠ってむし歯や歯周病になり、歯科治療をせずに慢性炎症病巣を放置して毒素が血液を汚し、それを人工透析で除去する。このような医療システムはなんだか変です。

江戸時代の思想家二宮尊徳（金次郎）は、「経済なき道徳は寝言である」と言いました。医療に関して同様の言い方をすると「歯みがきなき医療や健康づくりは寝言」なのです。二宮尊徳はもう一ついいことを言っています。

「この秋は雨か嵐か知らねども、今日のつとめの田草とるなり」。嵐が来れば作物は実らないかもしれないが、実ることを信じて田の草をとることが大切だと言うのです。生活習慣病は多くの危険因子が重なって発症します。歯の汚れだけが原因ではありません。しかし、歯磨きは大切です。「行く末が如何になるかは知らねども、今日のつとめの歯磨きをするなり」です。先人の「パクリ」ですが、意味するものは深いので「沖繩の知恵」の一つに採用していただきたいと思えます。



鶴見大学歯学部探索歯学講座

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3  
TEL.045-581-1001  
<http://dent.tsurumi-u.ac.jp/>



一般社団法人 口腔除菌協会

東京都港区六本木7-17-10  
TEL.0120-59-6480  
<http://www.kenko-station.jp>